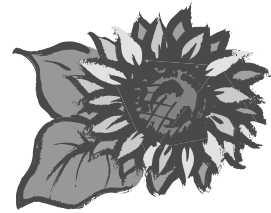


会 報

ひまわり

43号

ひまわりの会



— 発行人 —

会長 一柳一男

— 事務局 —

前橋市堀之下町 16 番の 1

(財)群馬県健康づくり財団内

電話 027 (269) 7811

第43号の発刊によせて



会 長
一柳 一男

ひまわりの会の皆さん、寒い日が続いてお
りますが、お元気ですか。この会報が43号と
して発刊されるころは、桜前線の北上の声が
聞こえることでしょう。

去る三月十一日、東北地方太平洋沖地震が
発生し、甚大な被害をもたらしました。現在
も被災地では多くの方々が困難に直面して
日々不安な暮らしを余儀なくされています。
同じ病を抱える方達に何かできることはない
かと考える日々です。

リーマンショックから三年近くが経過しよ
うとしておりますが、世界の経済、特に先進
諸国の低迷は厳しいものがあります。又、最
近の中東諸国の民衆行動の広がりには原油及び
食料の高騰を招き世界に暗い影を落としてお

ります。

その暗い世相は本県にも及んでいます。そ
うした中で明るい話題が一つあります。そ
れは、三月十九日北関東自動車道が全開通す
ることです。それは、群馬、栃木、茨城の三
県を結ぶ高速道路です。高速道が全面開通す
ることにより、三県の医療がより速く、より
身近になり医療環境の向上がはかられると命
をつなぐ道に期待が寄せられています。(上
毛新聞より)

私共ひまわりの会の大きな行事の一つであ
る「よろこびの会」の全国大会は、群馬県み
なみ町の水上館に於いて実施され成功裏に
終了することができました。他県から出席さ
れた皆様からも高い評価をいただきました。
これも群馬県健康づくり財団の全面的な協
力、援助、それにひまわりの会の皆さんの尽
力のおかげと感謝しております。

私共が加入している群馬県がん患者団体連
絡協議会(がん連協)では、群馬県議会の
がん対策推進特別委員会の調査に協力し、意見
交換会など実施しました。

またがん連協は、群馬県に於けるがん条例
の早期制定を願い、会長、副会長の三名は、
平成二十二年十月二十九日群馬県議会の関根

くにお議長に患者会の要望十一項目を提出し陳情しました。結果、同年十二月十六日の群馬県議会本会議において群馬県がん対策推進条例が全会一致で可決され条例が制定されることになりました。

ひまわりの会の主の年中行事は五月の総会、六月の全国よろこびの会への参加、九月の街頭キャンペーン、がん電話相談と会員の作品展等です。

本年は、ひまわりの会設立三十周年と云う一つの節目を迎えた記念すべき年です。記念日の三月八日は会員の皆様で楽しく懇談・会食をしました。

厳しい世相ですが、どうか会員の皆様には御健康に留意され、変わらぬご協力をよろしくお願い致します。



ひまわりの会は結成から30周年を迎えました。
初代会長をつとめた塚本顧問の回顧録です。

ひまわりの会回顧録
塚本 脩治

昭和55年(1980)9月26日

ひまわりの会結成設立

早くも30周年を迎えました。其の日は秋たけなわの好天気にも恵まれ、清新澁刺メデイカルセンターに26名が集合、(助)群馬県対がん協会主導のもとに、ひまわりの会(仮称)の創立会議が開催された。

議決内容については議事録で公称されていきますので省略します。重要案件のみ2、3記述します。

一、会名ひまわりの会とす。羽生田会長命名。

一、役員選出、会長 塚本脩治、副会長 佐藤健、副会長 小田切幸子、幹事 柿田勝也、大塚敏枝、滝沢豊男、山中静子、小松トク、幹事 下田資、設楽鈴子

以上10名

一、会則、予算、その他、討議。
昼食を皆さんで懇談会、皆、うちとけて各自の体験を話し合うことが出来て、とても有意義でした。

昭和56年(1981)9月22日

第1回ひまわりの会総会 メデイカルセンターにて開催。会員40名参加。

冒頭群馬県対がん協会羽生田進協会長は次のように、ひまわりの会の理念を示した。

「この会は、公平、友愛をもとに運営し、がん検診勧奨を活動の中心とすること、更に先に命名した、ひまわりの会の灯を一時と言えども消してはならない……」

と続いて、日本対がん協会相良直真氏より、がん予防12カ条について未公開と断って発表があり、一同感銘したものです。

記

一、偏食しないでバランスのとれた栄養をとる

二、なるべく同じ食品を繰り返して食べない

三、食べ過ぎを避ける

四、深酒はしない

五、喫煙はしない

六、適量のビタミンACEと繊維質のものを

よくとる

七、塩辛いものを多量に食べない、あまり熱いものとはならない

八、ひどく焦げた部分は食べない

九、カビの生えたものは食べない

十、過度に日光に当たらない

十一、過労は避ける

十二、体を清潔にする

以上

このニュースは、瞬く間に拡がり、日常生活や食生活の改善が進んだ。最近この話題は少ないが、市民は確り根をはり、実行しています。

昭和57年(1982)10月7日

第2回ひまわりの会総会 老人福祉センターにて開催。会員36名参加。

羽生田協会長談、ひまわりの会育成策について述べ、継続は力なりと語る。

「がん治癒者の健康」と題して、がんセンター東毛病院院長 三輪潔先生の講演を拝聴して質問は、がんの特効薬はいつ頃できますか!!でした。

三輪先生曰く、世界中の医学者、化学者、その他関係者が取組んでいる議題であり、私は2010年以降になると予測しているところです。現時点では検診で早く見付けて早く

治療することが大切です。

昭和58年(1983)4月27日

全国よろこびの会設立 本部仙台市。

ひまわりの会入会す。全国よろこびの会群馬県支部となる。命名黒川利雄博士。

会長に大槻昌夫、みやぎよろこびの会々々長

選出。会員総数3,964名。うちみやぎ支部2,369名。ひまわりの会56名と発表。

北海道、青森、山形、福島、長野各支部併せて7支部が加盟。

昭和58年(1983)11月29日

前橋東公民館長より地域婦人学習に講師依頼があり、対がん協会松本文江とひまわりの会塚本が招致された。

松本保健婦は、胃がんのメカニズムと予防

について丁寧に解り易く講演。塚本は自己の経験があり、対がん協会松本文江とひまわりの会塚本が招致された。

松本保健婦は、胃がんのメカニズムと予防

について丁寧に解り易く講演。塚本は自己の経験があり、対がん協会松本文江とひまわりの会塚本が招致された。

これを契機として体験発表が市町村に拡が

って、20回になった。

昭和59年(1984)9月25日

機関紙笑顔のひまわり第1号発行

会員20名が体験発表、がん告知を受けた時のショック、手術後の不安、検診で早期発見の喜びをつづった貴重な体験手記です。

昭和59年(1984)10月4日

第4回ひまわりの会総会 猿ヶ京温泉「上越観光ホテル」一泊で開催。会員10名。事務局3名。計13名参加。

全国よろこびの会大槻昌夫会長からの祝電

の披露があり、すべての案件が承認可決。懇親会は円陣を組んで和やかに始まり、誰とはなしに歌い出すと皆が之に続く。多芸な今井

局長が、美空ひばりの「酒は涙かため息か」を歌い出すと大合唱となった。もの言えば皆

かよい合う癒癒し友と出で湯に浸り温もる。船津セイ支部長作。

昭和60年(1985)1月31日

前橋支部誕生 船津セイ支部長就任。

支部が出来て、会員との交流は盛んになり、諸連絡は正確に早く伝わり、好結果が生まれた。支部長の人柄か。

昭和60年(1985)9月15日

高崎支部誕生 関かく子支部長就任。11名

参加。

弥助すし店にて昼食をとり乍ら、和気あいあい結成した。慎重な方で会員の信望あり期待される。

昭和60年(1985)10月6日

第五回ひまわりの会総会 楽水園にて開催。25名参加。

「全国よろこびの会」大槻昌夫会長が初めて、来場祝辞を頂く。会議のあと伊勢崎市保健予防課長の「がんは今」と題し落語一席を、参加者一同笑いこけながらも真剣に耳を傾けた。

昭和61年(1986)2月22日

東京全電通集検学会 会長胃集検の提言。

昭和61年(1986)6月6日

全国よろこびの会総会は北海道定山溪にて一泊。

会長、山中、高橋(財団)参加。

昭和62年(1987)5月21日

第五回全国よろこびの会(東京)

黒川利雄先生の「医の心」について講演。

昭和63年(1988)9月25日

第六回ひまわりの会総会 老神温泉山口館一泊。会員15名参加。決算系その他討議可決。

平成元年(1989)6月8・9日

全国よろこびの会総会

去年の東京大会の折、大槻会長より来年は群馬県で頼みますと握手を求められて、お引き受けしたものの、緊張が走った。

それから準備に入り、約一年はアツと言う間に過ぎ当日を迎えた次第です。

天下の名湯伊香保温泉観山荘に全国からのお客様53名をお迎えして、盛大に開催。

大会では形式にとらわれずに、群馬方式で進め、全員参加で、動議、質疑応答があり好評でした。記念講演は東毛病院長松浦鎮博士にお願したところ快くお引受けいただきました。数時間後に国際会議で羽田を発つ忙しいスケジュールであったことを聞き感動致しました。

翌日は小雨でしたが、榛名湖周遊と高崎観音を参拝して無事群馬大会を終え、遠方のお客様をお見送りして解散終了しました。

平成元年(1989)9月1日

笑顔のひまわり第二集発行

がんを克服した18人の体験手記発表。

平成2年(1990)9月19日

第七回ひまわりの会総会 財団にて開催。

今井貴子診療部長が「最近のがん治療について」講演。

平成3年(1991)10月6日

第八回ひまわりの会総会 長野市善光寺ホテル一泊6名参加。

平成4年(1992)10月23日

第九回ひまわりの会総会 財団にて開催。田村先生の「大腸がんについて」講演。

平成5年(1993)9月5日

初回街頭キャンペーン前橋駅前にて実施。会員8名、財団3名参加。

平成7年(1995)9月11・14日

初回がん電話相談実施、相談件数10件。

平成7年(1995)9月27日

ひまわりの会15周年式典 財団にて。

一、会長挨拶、永年に亘る会員の努力を讃え、財団事務局のご支援に謝意を述べる。

一、来賓祝詞、元群馬県対がん協会羽生田進氏より、「皆さんが私の提唱した理念を守り続けたことはとても嬉しい」と祝詞。

一、感謝状贈呈、永年功労者 石井袈裟江、船津セイ、ご苦勞様でした。

一、記念講演、松浦鎮先生、がんに寄せるメッセージ。

一、体験発表、山中静子幹事、閉会。

平成11年(1999)6月10・11日

第17回全国よろこびの会総会 伊香保温泉ホテル木暮で開催。

全国から大勢来県された。会員諸君は気持ちを一つにして知恵を出し合った。

翌日の観光は榛名湖周遊で始まりました。観光名所として整備された小高い展望台から見える榛名富士、青々とした湖面の景観はすばらしい。誰かが歌いましょうと切り出し、湖面に届けとばかりに「湖畔の宿」を皆さんと歌った。よい思い出になった。続いて、高崎百衣観音を参拝。高崎駅で遠来の皆さんをお見送りして総会の日程を終了。

平成12年(2000)5月10日

定例役員会で役員人事の改革。

任期満了に伴い、7名が退任。佐藤健、設楽鈴子、山中静子、小松トク、小田切幸子、大塚敏枝、塚本脩治(2年延長)。この内、男性で塚本一名、女性は全員健在。

平成23年(2011)2月28日

私の回顧録は設立初期を重点にしました。

敬称略で失礼。

おわり



ひまわりの会30周年祝賀会

盛り上げよう

群馬のがんサロン

今井 忠夫

今となつては不思議なくらいなのですが、手術後3年目の一昨年まで、群馬県にがん患者会があるというのを知りませんでした。

一昨年の秋、県庁でがん患者の作品展をやっていると、新聞記事を見て初めて知り、その幾日か後にひまわりの会に入会の申し込みをしました。定例会が始まったのは、その何ヶ月後からでしたので、私は最初から参加させてもらうことができました。そこで、自分の困っていることや疑問点を人に聞いてもらうことも、先輩方の話を聞くこともとてもいい経験になりました。そして、それまでほとんど何も知らなかった自分を思い知り、インターネットを使ったり本を読んだりして勉強もするようになりました。

そんな時に「がんサロン」というものを知りました。そして、ほとんど直感的に「群馬県にもこういうものがたくさんできるといい」と感じました。でも、その頃にはもう県

内ではがんサロンを立ち上げる動きが具体的に進んでいたようです。最初は、群馬大学付属病院と藤岡総合病院だったと思います。がんサロンが始まったというのでさっそく出かけてみました。それ以後、がんサロンやそれに似たものがあるという話を聞くと出かけるようになって、今では、桐生厚生総合病院、伊勢崎総合病院、県立がんセンターの会にも参加させてもらっています。だんだん数が増えて参加するのも大変だと思うこともあるのですが、顔なじみになって、また来てくださいます。などと言われるとつい行きたくなくなってしまいます。

そんな中で、いくつか気付いたことがあります。まずその一つは、「場所を用意しただけでは人は集まらない」ということです。やはり複数の世話人がいた方がいいようです。いつも決まって顔を出す世話人がいて、そこにちよいちよい参加する常連に近い人が加わり、初参加の人が一人二人いるというような時が、一番充実した話し合いになるような気がします。

今の県内のがんサロンは、みな病院が主導で始まっているせいかな、がん患者が世話人になつていくところはあまり多くありません。

また、患者会の中には、がんサロンという名称は使わなくても、がんサロンのような会合を持つていくところもあるようです。



がん患者ミーティング (発表者：今井さん)

島根県の「しまねのがん対策」というホームページに、22か所あるがんサロンの情報その他が載っていますが、島根県には患者会はほとんどないようです。多分がんサロンの集まりが患者会のような役割も果たしているのでしょうか。でも、患者会とがんサロンとはいくつかの点で違いがあるような気がします。

多くの患者会は会費を取りますが、会費を取るがんサロンはほとんどありません。また、患者会は主に会員のためにありますが、がんサロンは外部に開かれていて、誰でも自由に参加できます。実際は、かなりオープンな患者会の集まりもあり、それほど単純には割り切れないのですが、私はおおざっぱに、そう理解しています。

群馬県では、既にあるがん患者会が、新しく始めたがんサロンを支援するような形ができるのではないのでしょうか。患者会に入っている人たちがもっと積極的にがんサロンに参加して、がんサロンを盛り上げてくれるといいと思います。多くのがんサロンでは誰が参加してもいいのですから、私のように複数のがんサロンに参加することもできます。それぞれのがんサロンに特徴があり、様々な人と出会え、いろいろな話が聞けて、生きる勇気をもらうことができますし、また、時には、落ち込んでいる人の支えになることもできます。

ただ、多くのがんサロンは、会費を取りませんから、場所を提供してくれる医療機関の物心両面からの支援があつて成り立っているのが現状です。こういう面では、是非とも公

的な支援がほしいものです。

ようやく始まった群馬県のがんサロンが、多くの人の協力によって今後さらに盛んになるといいと思います。是非たくさんの人にがんサロンに参加してもらいたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

以上は、平成 22 年 11 月 27 日に行われた、「群馬県がん患者ミーティング 2010」のリートークでひまわりの会が担当した「ドタバタ 井戸端 がんサロン」の締めくくりとしてスピーチさせていただいた原稿です。

体験談

幸坂 頼子

私は平成 14 年 4 月に胃がんの全摘出手術を受けました。

がんと判ったのは、体調を崩したため胃カメラ検査を受けた結果、胃がんがみつかりました。年齢が 51 歳だった為、更年期障害だと思っていましたので、ショックで腰が抜けそ

うでした。

術後から一年間位、私の心は色々な症状に悩まされ、うつ状態でした。あの時は、同じ経験をしている人達の話聞き、参考にしたかったのです。



幸坂さん（中央）

通院をされていて、こういう気持ちで先生に話したのですが、解ってもらえませんでした。今考えると、あの時に相談相手が居てくれたらあんなに落ち込まなくても済んだと思うのです。

でも、このままではいけないと思った頃、

町の広報でがん患者の電話相談があることを目にした時は、とてもうれしかった。

早速、相談に乗っていただき、救われたと思いました。「ひまわりの会」を知り入会以来、会員の皆さんに面倒を見ていただき、段々笑顔が多くなりました。

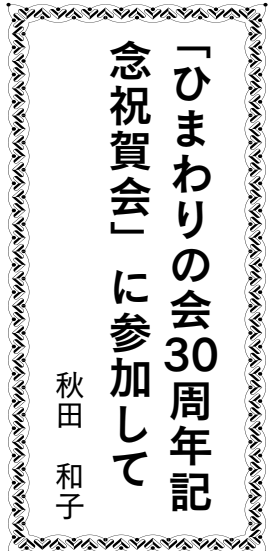
沢山の人達に出逢い、人の病歴を知る事で自分よりもっと辛い思いを乗り越えている人が、いっぱいいる事に気づき自分も頑張ろうという意欲が出たのです。

私にとって「ひまわりの会」の人達に出逢えた事は、最大の喜びでした。もし、あのままだったらいつ回復出来たか分かりません。

この会で沢山の人達と友達になれて、今まで知らなかった人生が見られたのです。今では会の新年会や親睦旅行、月一回の茶和会など楽しみにしています。ですから、同じ経験で苦しんでいる人がいれば、一人で思い悩んでいるより「ひまわりの会」で元気になりましょうと言いたいです。

私はこれからも抗がん剤を続けなくてはなりません。何でも食べられ仕事へ行ける事が嬉しいのです。そして、将来ももっとと医学が進み誰もが完治出来るよう願っています。

今までもこれからも私を支えてくれた家族や全ての人達に、ずっと感謝していきます。ありがとうございます。



平成23年3月8日、前橋市内の龍遊亭にて、会員21名の参加で催された。

会員のみなさんは、前日上州の山並みを白くした寒さも和らいだ静かな春の日差しの中、県内婦恋や館林からも集まって来られた。参加者の中には、30年前に会を立ち上げた当初からの会員さんも副会長からのお誘いに久しぶりに顔を見せ、また最近入会されたばかりの方もおり、会に賑わいを見せた。

県内の他のがん患者会からも、「ひまわりの会30周年」を祝うメッセージが寄せられ、花を添えて頂いた。

和やかな歓談が、続いた後、祝賀のケーキ入刀の挨拶に立った塚本顧問には、30年間の重みと「がん早期発見のための検診普及」へ

の情熱の赫たる力強さが、あふれていた。記念写真の笑顔は、いつぱいの思いを込めた喜びのひまわりの姿そのものである。「30周年」、私にとっても、丁度社会に出るからの年月である。自分にとっても30年を振り返る機会を得て、感慨深い思いである。

新会員紹介

宮川 満 (前橋市)

田島 節子 (前橋市)

木村 禮子 (館林市)

山田 博子 (富岡市)

このたびの大規模地震により被害を受けられた皆さまへ
このたびの大規模地震により被害を受けられました皆さまに、心からお見舞い申し上げます。1日も早く復旧されますよう、お祈り申し上げます。

一緒に活動してみませんか
本会の活動にご賛同くださる方々のご入会をお待ちしています。
ひまわりの会事務局
(群馬県健康づくり財団内)
電話〇二七
(二六九) 七八一一